

京都支部

医療機関の情報管理に関する調査研究

今年度のテーマ「医療機関の情報管理」に関しては、下記の内容で調査を実施した。

1. 調査内容の討議
2. 調査項目の抽出と調査票の作成
3. 調査対象医療機関の抽出
4. 関連諸団体への協力要請
5. 対象医療機関へのアプローチ
6. 対象医療機関からの調査票の回収
7. 回収された調査票の分析
8. 報告書の原稿起案

まず、調査内容の討議に関しては、支部においてこの分野に詳しい数名の有志によりブレインストーミングを行い、基本的な方向性を確認した。

その結果、

- (1) 医療機関の基本的な情報システムの実態
- (2) ホームページの利用活用状況
- (3) 個人情報保護への対応とプライバシーマークへの取り組み
- (4) 電子カルテの導入への取り組み

に関して、調査を行うことを決定した。

次に、基本的な方向性に沿って、調査票の作成を行った。具体的には成岡・大石・島田の3名が中心となり、調査票のたたき台の作成を行い、相互に意見交換し調査票のテンプレートを作成した。

対象とする医療機関の選定に関しては、京都府保健医療部発行の平成17年度京都府下医療機関名簿を参考に、地域、診療科目、病床数、設立主体などから恣意的に選択した。なるべく偏りのないようにしたつもりである。ただし、調査票の回収の点を考慮し、比較的京都市街に所在する医療機関が中心になったことは致し方ない事情である。

関連する諸団体として、京都府私立病院協会、京都府医師会、京都府保健医療部、京都市保健医療課へ出向き、調査の主旨を伝え協力をお願いした。

おおむね、ご協力をいただける医療機関には調査票を委託し、一定期間後に担当者が回収に出向くか、先方から郵送で支部宛に送付いただくよう依頼した。また、その場で回答を記述いただいた医療機関も数件あった。回収には、各医療機関のそれぞれの事情があり、相当な日数を要した。しかしながら、医療機関という特殊性から、長期の時間がかかっても、回収の件数を増やそうと考え、極力回収に協力いただける医療機関は、時間をかけて回収した。その結果、20件を上回る回収が実現した。

回収された調査票は、リーダーの成岡が中心にデータの入力を行い、客観的な分析を数名のメンバーが中心に分析を行った。さらに、数回のミーティングを経る中で意見交換を行い、各章ごとに担当者を決定し、原稿を起草した。